

研修報告 教育産業常任委員会
福島県 環境創造センター
山形県 川西町フレンドリープラザ
を研修

去る11月10日(木)、11日(金) 教育産業常任委員会は、福島県環境創造センターにおいて環境回復の教育・研修・交流について、山形県川西町フレンドリープラザにおいてはその運営について視察研修をしてまいりました。

福島県環境創造センター

◇調査地 福島県田村郡

三春町10-12 原発事故で汚染した福島県の環境を回復し、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造することを趣旨として作られ、「体験を通して、放射線や環境問題を知り、環境の回復と創造への意識を深めること」や「学びや体験から得た知識を共有し未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場」を目指すとこの施設です。

原子力災害で破壊された地域を復興するために国や県、研究機関が一体となって努力する姿が見て



取れました。なにが危険で、何が安全なのか、科学的裏付けを取り、事実に基づき分かりやすく説明を行う姿勢は、原子力災害だけでなく、町の情報提供やPR等でも相通するものであると感じられました。

山形県川西町フレンドリープラザ

◇調査地 山形県東置賜郡

川西町上小松1037-1

◇施設概要

劇場 客席数 717 コンサート、演劇、講演会
 遅筆堂文庫 井上ひさしの蔵書7万冊
 川西町立図書館 蔵書数57874冊



出合いの丘と位置付けられ、川西町出身の作家・井上ひさし氏寄贈による蔵書管理や井上ひさしの思いを引き継ぐ事業を展開して行きました。

また、フレンドリープラザの管理運営は、平成19年度よりNPO法人「遅筆堂文庫プロジェクト」が指定管理により行っています。

伝統文化と新しい文化の組み合わせ、交流拠点や周辺整備によつて新たな可能性を探っている様子でした。

研修報告 総務民生常任委員会
茨城県 大子町環境センター
新施設
宮城県 女川町議会
を研修

去る11月17日(木)、18日(金) 総務民生常任委員会は、平成27年4月より稼働された最新鋭の大子町環境センターと、東日本大震災の津波により町が壊滅的な被害を受けた宮城県女川町議会において災害復興事業等の現状視察研修をしてまいりました。

大子町環境センター施設概要

大子町環境センターは、稼働から31年を経過し施設の老朽化による処理能力の低下に伴い施設のあり方を協議検討し循環型社会形成推進地域計画を踏まえ、更新策定に取り組み2ヶ年の工事期間を経て平成27年4月に最新施設が本格稼働されました。



- ◇処理能力 16t/8h(1炉)
- ・受入設備 ピットアンドクレーン方式
- ・焼却設備 ストローカ燃焼方式
- ・飛灰処理 薬剤(キレート)処理
- ・排水処理 施設内再利用処理

◇リサイクル設備
 ・処理能力 2・5t/日
 選別・破碎・圧縮
女川町の復興概要

女川町は、宮城県東部に位置し漁業、水産加工業が盛んな港町です。東日本大震災の津波により、壊滅的な被害を受けましたが、現在、復興事業として住宅地を安全な高台に整備する一方、女川駅周辺に公共公益施設を集中的に配置しコンパクトで利便性の高い中心市街地を形成して行きました。

また、女川町議会は災害時における議員の行動心得として、災害の状況に応じ必要な体制と対応が取れるよう議会災害対応指針等を策定され、その概要について丁寧な説明いただき、非常に参考となりました。



現在、城里町環境センター(稼働32年経過)は昨年7月より一般廃棄物処理施設整備検討委員会が発足され施設見直しの協議検討が進められております。大子町環境センターの新施設は公害防止に万全を期するとともに快適な住民生活のための環境に配慮した適正な運転管理に努められ参考になる視察研修となりました。